

2019

12

vol.546



<https://www.yuai.jp/>

昭和63年1月18日第三種郵便物認可  
12月号/令和元年12月1日発行

あなたがいて、わたし、がある。

ゆうあい

特集

「相談員座談会

ばすてる開設20年

「ゆうあい相談機関の今までとこれから」



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
[www.yuai.jp](http://www.yuai.jp)

運営委員に聞く!!



佐直 栄一(明生園)  
Sajiki Eiichi

運営委員 施設長会の中から選ばれた運営会議のメンバー

# サポート体制の再編、見直し等について

はじめに

グループホームが制度化され30年が経過しました。国は入所施設からグループホーム等への地域移行施策を進めてきましたが、第5期障害福祉計画(2018〜2020年度)において2020年度にグループホームで暮らす障がいのある方々が障害者支援施設に入所している人の数を上回ることが厚生労働省の集計で分かりました。

「ゆうあい」が運営しているグループホームは現在48か所(約200名)ですが、「サポートはまなす」が支援しているグループホームには、制度化以前から地域で暮らしている利用者も多いため高齢化が進んでいます。また、近年自閉症の利用者の増加も顕著になってきており、地域で暮らす方々のニーズは多様化してきています。

年々増加していくグループホーム等の地域生活の場をどのように支えていくのか、また、様々なニーズにどのように応えていくのか、これまでの支援体制を見直し、地域生活支援の質の向上に取組んでいくことが求められています。

第5期障害福祉計画におけるサービス見込み数

	共同生活援助(GH)	施設入所支援
2018年度	122,114人	130,583人
2019年度	129,538人	129,917人
2020年度	136,019人	127,399人

「ゆうあい」における地域生活支援拠点の現状

「ゆうあい」における地域生活支援は、現在4つの支援拠点で函館市、北斗市に点在するグループホームを支援しています。

「サポートはまなす」は、北斗市七重浜を中心に支援を展開してきた通勤寮「はまなす寮」と「函館青年寮」がバックアップ施設として函館市栢梗町周辺で支援していたグループホームを組織統合し「グループホームつぐみ荘」に設置されています。23か所のグループホームを支援しています。一般就労していた方々に対してグループホームが制度化される以前から地域生活支援に取り組んできましたのでその歴史も長く、近年は一般就労をリタイヤされ就労継続事業や生活介護事業に携わる利用者が増えてきています。

「サポートかわつき」は、北斗市当別にある「新生園」、「明生園」、「ワークショップまるやま荘」がそれぞれバックアップ施設として支援してきたグループホームの支援拠点として統合され「グループホーム明和荘」に設置されました。入所施設からの利用者が多く、一般就労のほか当別地区にある就労継続B型事業や生活介護事業を利用しています。グループホームは北斗市内に8か所点在しており、支援エリアが約14kmと広範囲に渡っています。

「サポートカム」は、北斗市久根別にある通所施設「クッキーハウス」において在宅の利用者に対する体験型グループホームを実践し、次第に在宅者のニーズが広がり久根別地域を中心にグループホームを展開しています。利用者は在宅の方々が中心で、一般就労や北斗市内の

生活介護事業や就労継続B型事業を利用しています。現在15か所のグループホームの支援しており、ホームヘルプ等のサービスを利用し障がいの重い利用者を支えています。

「サポートすばる」は、自閉症支援に特化した入所施設「星が丘寮」出身者で構成された「グループホームすばる」を平成27年に開設し、現在2か所のグループホームの支援にあたっています。今後、そのニーズの多さから増設が考えられる自閉症利用者の地域生活支援拠点として充実していくことが望まれています。

サポート体制の再編、見直し等の視点

「グループホームはれつ」とは「函館青年寮通所部」利用者のニーズを受け函館市石川町に開設されました。今後この周辺地域に増設のニーズが高く、以前「函館青年寮」がバックアップしていたグループホームが点在しているエリアでもあり、現在の支援拠点である「サポートはまなす」を再編し新たな支援拠点を創設することが十分考えられます。

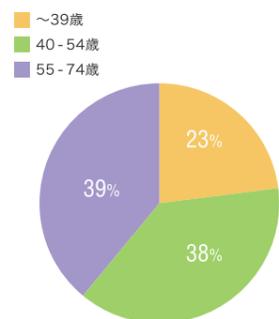
「サポートカム」が支援していた「カムV」の利用者は自閉症の方々が構成されており、グループホームにおける自閉症支援の強化を図るため、自閉症支援に特化した「サポートすばる」へ支援拠点を変更しました。今後こうした支援拠点間の統合や変更が必要に応じて迅速に対応できる仕組みが大切です。地域における自閉症支援の体制を整えていくことが求められています。

「ゆうあい」が運営しているグループホームを利用する方々のうち、55歳以上

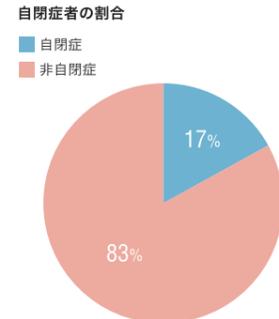
が39%を占めています。特に「サポートはまなす」が支援しているグループホームでは51%と高い割合になっています。こうした高齢化や重度化に対応するため創設された「日中サービス支援型グループホーム」は共同生活援助の新たな類型であり、その内容を十分精査し今後の地域生活支援の選択肢の一つとして検討することが必要です。

このような再編、見直し等における視点の他にも様々な角度からサポート体制を見直し、変革と継続を見極め、利用者のニーズに即した支援体制を構築していくことが求められます。法人第4期5か年計画の重点課題として地域生活支援委員会等で十分に検討し取り組んでいきたいと思っています。

ゆうあいグループホーム利用者の年齢構成



ゆうあいグループホーム利用者に占める自閉症者の割合



障害者生活支援センターぱすてるが開設して、今年でちょうど20年が経とうとしています。そこで現在、相談機関で活躍されるリーダーの方たちにお集まりいただき、ゆうあい相談機関のこれまでと現在、そしてこれからについて語ってもらいました。

**前田**  
本日は、ゆうあいの各相談機関でリーダー的立場にある3名の皆さまにお集まりいただきました。まずは、皆さんのプロフィールと、現在のお仕事の内容について教えてください。

**片山**  
大学(障害児教育分野)を卒業してから二年間、七飯養護学校おしま学園分校で臨時教諭を勤めました。翌年の平成11年、侑愛会に入職して第二おしま学園に配属されました。5年の経験を経て、現在のおいそらに異動して15年が経ちます。いまの仕事内容は、相談から直接支援、機関支援など多岐にわたります。会議やコンサルテーション、セミナー講師の仕事なども増えています。なかでも重点を置いているのは支援者の育成と、地域のなかに理解のある人を増やしていく取組みです。

**小笠原**  
平成13年にゆうあい養護学校高等部の教員として入職しました。学齢期後半(15〜18歳)の知的障がいや発達障がいのある子どもたちを教えていました。その後、あおいそらに異動コーディネーター職を8年経験しました。3年前から今のすてっぷです。現在の仕事の対象範囲は2市16町(渡島・檜山)ととても広いので、地域の関係機関と連携体制を作ることがもつ

北海道でも例が無かったと聞いています。そうした開設時の理念が現在も大切に守られていることはすごいことだなと感じます。事業についても、ガイドヘルパー事業や手話通訳・要約筆記派遣事業、ピアカウンセリングなど必要と思われることは色々やって来ましたが、平成27年には基幹相談支援センターの委託も受けて、地域の相談支援事業所と連絡会議などを開催するようになっていきました。

**前田**  
ぱすてるの開設準備室は最初、旧函館青年寮の園長室に置かれていました。利用者の方たちはもちろん、職員も「何をしたらいいんだろう?」「不思議な顔をして覗いていたことを思い出します。ぱすてるが開設してから早20年、今ではどの相談機関もしっかりとこの地域に必要な場所として根を下ろしていることに感慨を覚えます。さて次に、相談機関ならではのエピソードや思い出話などありましたらお願いします。



**片山**  
小笠原さんの話に「連携」の話題が出ていますが、様々な他職種の方々と連携を取るためにはコミュニケーションが欠かせません。色々な方とつながることが大事な仕事のひとつなのですが、最初はストレスマネジメントが大変でした。相談についても共感のアンテナが立ち過ぎると、感

とも大事な仕事のひとつです。他にも障害者雇用の理解と啓発、職場訪問、各関係機関との会議、個別相談対応など幅広いです。

**小谷**  
大学卒業後、国立秩父学園の児童指導員科で二年間勉強しました。その後、長崎県にあるコロニー雲仙・南高愛隣会でグループホームの住込み業務や在宅支援ワーカーなどを経験しました。結婚して侑愛会に入職したのが、ぱすてる開設3年後の平成14年のことです。3回の育休をいただきながら、ぱすてる一筋17年になります。仕事の範囲は年を追うごとに増え続けて

います。個人から関係機関に至るまで内容も様々です。

**前田**  
私と相談機関の関わりは、平成15年に開設したアシストほくからです。在宅サービスの充実が各市町村で活発化していくなかで、当時の上磯町から侑愛会が地域生活支援ステップアップ事業を委託することになったのです。ゆうあいには他にも、渡島圏域障がい者総合相談支援センターめいがありますね。それでは次に、皆さんが所属している相談機関の開設から現在までの経過について紹介してください。

### 相談員座談会

# ぱすてる開設20年

～ゆうあい相談機関の今までとこれから～

日付:令和元年9月25日 場所:ぱすてる 文責:小谷 高大



**参加者**  
片山智博 Katayama Tomohiro  
発達障害者支援センターあおいそら副センター長/平成11年入職  
小笠原一郎 Ogasawara Ichiro  
道南しょうがい者就業・生活支援センターすてっぷ課長/平成13年入職  
小谷素美子 Kotani Sumiko  
障害者生活支援センターぱすてる課長/平成14年入職  
**司会、メインインタビュー**  
前田典之 Maeda Noriyuki  
法人総合施設次長

情が引きずられてどつと落ち込んでしまうことがよくありました。仕事の成果も目に見えて確認できることは少ないです。前に進んだと思つたら、また逆戻りなんてこともよくあります。相談機関の仕事は、印象以上に地味なものです。他には、外部の人と一緒に仕事をする機会が多いので、服装にも気をつけるようにしています。

てくれている」というようなお話をいただいたときは嬉しいですね。しかし、そうしたケースは多くはありません。就職先が見つかることがゴールではなく、定着して長続きすることが大切だと感じます。そのための「準備を整えること」が、私たちの仕事に求められることのひとつです。相談者と一緒に、「自身のこと、得手不得手なこと、将来の目標など」についての整理をサポートしていきます。そして就職後は仕事だけでなく、人生そのものを豊かに過ごしていっていただくような応援をしています。当たり前のことですが、働いてお金を稼ぐことが本当に大変なことなんだと、すてっぷに動めてからしみじみと感じます。

**片山**  
第二おしま学園で取り組んでいた強度行動障害特別処遇事業とおして、在宅生活が非常に困難なお子さんが多いことが分かってきました。しかし、当時は在宅で支えるご家族からの相談が増えても、相談窓口になるような場所はありませんでした。先ほどの前田次長の話にも出ましたが、在宅サービスの充実が叫ばれる時流のなかで、在宅の自閉症者やそのご家族を支えようと平成13年に自閉症・発達障害者支援センターあおいそらを任意開設しました。翌年には北海道で初めての委託事業となりました。その後、道内の他の地域に発達障害者支援センターが開設されるまで道内各地に向向いていました。現在、北海道には4か所の発達障害者支援センターがあります。

**小笠原**  
平成15年に職場適応援助者(ジョブコーチ)支援事業を開始、平成17年に国(厚労省)と北海道から委託を受けて障害者就労・生活支援センターとなって現在に至ります。事業名は略して「なかぼつ」等と呼ばれます。現在、北海道には11か所ありますが、21ある圏域すべてに設置されてはいません。すてっぷも3圏域を対象範囲にしています。北海道以外の都道府県は1圏域につき1か所の設置を可能としているため、これは土地の大きい北海道固有の課題なのだと思います。

**小谷**  
数多くの相談を受けてきましたが、答えを指し示めそうとするのではなく、ただ、その場と一緒に悩み、考え、ときには涙を流しながら相談をされる方の気持ちに寄り添おうと努めてきたように思います。話を聴くだけで何の力添えにもなれず、申し訳ないやら、悔しいやらの気持ちになることもよくあります。それでも、あるお母様から「あのとき話を聞いてもらったことで救われました」と相談の後日にお手紙をいただいたり、ある重度の障がいのある、本人から、ある日ばそつと自らの本音をどうしても話すことができない心の内を明かされたときなどは、少しは役に立ったんだろうかと励まされる気持ちになります。上手なアドバイスを考えるよりも、とにかく相手の話を聴くことに全力を



傾けること。そしてその人自身が答えを見つけて前に進むようにするプロセスをチームで支えていくこと。そんなことを大切にしてきました。

**前田**  
さて、先ほどから「連携」という言葉がよく出てきます。連携、ネットワークといったものが今後、もキーワードになってくるように思うのですが、その辺りのことについてお話を伺えればと思います。

**片山**  
連携の大切さはあらためて言うに及びませんが、ほんとうに難しいテーマだと感じます。色々な機関と、色々な人たちで繋がりを持つことは、普段から強く意識しています。一つ言えることは、連携は手段であって目的では無いということです。目的を達成するために、繋がりを必要とすると思うのです。ケースによっては、連携が噛み合わないこともあり、単独で何とかする方が良いようなケースもあります。発達障がいのある方たちをサポートするうえで連携は欠くことの出来ない重要なテーマの一つですが、そのあたりはまだまだ課題が多く、試行錯誤中といったところです。

**小笠原**  
連携の考え方は、片山さんと同じです。お互いを知り合うことや、体制づくりも大事なことです。しかし、それらの目的が「ご本人を中心」としているという視点もとても大事なことで、はないかと考えています。その方のために、関係者がどのような繋がりを作っていく必要があるのか。ご本人を中心とした支援計画をもとにして協議を重ねていくことで、連携のカタチが出来るようになっていくのではないかと考えています。ご本人を中心とした仕組みこそが連携体制構築

築のための基盤となり、ひいては地域づくりにつながっていくことになるからです。



**小谷**  
私もそう思いますね。ご本人が、どうありたいのか。支援者はそのために、どうあらねばいけないのか。それぞれの立ち位置や役割の違いを理解、認め合って繋がりを作っていきたくて、仕事をしていきます。難しいケースほど、連携は大切になります。何かあれば、すぐに支援会議を開催するようにしています。一人で進めることのできるケースはほぼ無いように思います。

**前田**  
あおいそらでは、今どのくらいの数の機関支援をされているんですか？（片山）今年、新人スタッフの数が増えたので、数や頻度は少なめにしています。うくん、ケースにも抛りますね。障害者雇用に積極的でない事業所の啓発はどのような工夫をされているんですか？（小笠原）中小企業同友会や函館地域自立支援協議会就労部会などに参加していくことで、雇用相談や研修依頼が増えています。また、意見交換会や相互見学会などを通じて異分野交流が可能となつて啓発が進もうとしています。ここにいる三機関の連携はどのように行われているんですか？（小谷）それぞれの長所を生かすことが出来るように役割分担をしています。月に1回は合同会議や代表者会議を開催していま

す）  
それでは最後のテーマです。皆さんの所属相談機関の直面している課題、また今後求められる役割や機能についてどうお考えか教えてください。

**片山**  
今年も「自閉症支援のためのワークショップ5日間コース」など、発達障がいに関する正しい理解と適切な支援ノウハウを持った人材の育成を目指した研修を色々企画しました。若い方たちに支援の面白さや醍醐味を知ってもらおうと試行錯誤していますが、専門性のある人を育てるということはほんとうに難しいテーマだよなと実感しています。さらに、発達障害者支援センターのスタッフにはより高度な専門性が求められます。相談そのものにも一つの特殊なスキルが必要とされます。今後も、人材育成は最大の課題であり、最大のテーマだと感じています。

**小笠原**  
「働く」という切り口から、障がいのある方が今よりもっと地域で生き生きと活躍できるように街づくりに貢献していきたいと考えています。相談業務をとおして多くの人と出会い、さまざまな価値観や人生観などに触れてたくさんの方を学ばせてもらってきました。障がいがあってもなくても住みやすい街、多様性が認められる社会となつていくための一助となる仕事をしていきたいと思っています。

**小谷**  
基幹相談支援センターとしての役割も担い、一人ひとりの相談員が抱える計画相談の数も増加の一途を辿つて業務が過重傾向にあります。便利な「何でも屋さん」と例えられることもあ

りますが、出来ることと出来ないこと、地域にとつて優先順位の高いこと、職員の長所を生かした仕事の割り振りなどの切り口から業務整理していく必要性を感じています。同時に、ばすてるが20年間変わらず貫かれてきた伝統やモットーも守っていきたくて考えています。あとは、片山さんが話したように人材育成ですね。相談機関で働きたいと思ってもらえるような魅力のある職場作りを目指していきたいと思っています。

**前田**  
本日は、長時間ありがとうございました。皆さんから貴重なお話を聞いてとても有意義な内容だったと思います。これからも、求められる役割を果たしていくうえでさまざまな「苦労があるでしょうが、ご健闘をお祈りしています。

- 道南しょうがい者就業・生活支援センターすてっぷ**  
add: 函館石川町41-3 tel: 0138-34-7177
- 渡島圏域障害者総合相談支援センターめい**  
add: 函館石川町90-7 tel: 0138-47-3046
- 障害者生活支援センターばすてる**  
add: 函館石川町90-7 tel: 0138-34-2611
- 発達障害者支援センターあおいそら**  
add: 函館石川町90-7 tel: 0138-46-0851
- 障がい者生活支援センターアシスト・ほくと**  
add: 北斗市久根別1丁目7-10 tel: 0138-84-6681

相談員座談会

ばすてる開設20年、ゆうあい相談機関の今までとこれから



社会福祉法人侑愛会  
学校法人ゆうあい学園  
www.yuai.jp